

コロナ禍

でも…

今だから 思うこと！ 今だからできること 第2弾

ふと立ち止まって 考える…

その余裕って 大事ですね…



～ コロナ禍に 立ち止まって考えてみました！～



芳村 恵子

2019年(R元年)9月21日、長年目指していた第1回鳥取県青少年育成アドバイザー養成講習会が開催されました。この日に至るまでの会長をはじめとする事務局長・会員全員の努力と協力の結晶だったと思います。

その後、私は講習会担当という新たな役割をお引き受けしました。そこで、開催に関連した資料を見せて頂きました。何と想像以上の大役で、恐怖にも似た不安を感じました。

本来なら今頃、第2回として実施している筈でした。しかし、コロナ禍で三密を避けるためにと、時勢に合わせて講習会も中止となりました。中止と決まった時から、次回までに1年間の猶予ができた和一息入れて、あの不安を脇に置きました。そして、「今更？」と笑われるかもしれませんが、講習会の資料を見直してみました。私自身の考えを整理してみましたので、皆様よりご意見を頂きたいと思います。

まず主旨です。『地域における日常的な各種青少年育成活動の中核となる指導者を養成します』です。ですから、一般の方を対象の単なる知識の普及だけに留まらず「指導者の養成」です。でも、主旨にも明記されていないように我が会員養成が一番の目的ではありません。

次に、認定に関する項目です。『入門コースを修了した方は会員とすることができます』ですから、会員にならなくてもよいわけです。「今日はいい勉強になりました。」と思っただけでも良いのですね。

でも、標題をみると、アドバイザー仲間を増やすことが目的にもなります。講習会の対象者は『①青少年の育成指導・教育・支援等、幅広く青少年に関わる活動をしている人 ②青少年指導者としての基礎知識や今日の青少年を理解する手掛かりを学びたい人 ③住んでいる地域をいきいきとさせる手がかりや相談・助言について学びたい人』とあります。

①の方は既に自分の活動拠点のある方です。ですから、更なる知識や技術の習得という目標を掲げられます。その上で、「鳥取県青少年育成アドバイザー」として認定されれば、活動にも何かしらプラスの要素ができるでしょう。次に②と③の方はどうでしょう。その中でも「基礎知識は学べたので今現在活動の拠点は無いが会員になりたい」という方の意欲を、汲み上げなければなりません。その対策として効果的なのは、先輩となる私達がアドバイザー会員になることの魅力と強みを示すことだと考えます。

皆さんにとってアドバイザーの肩書はどんな強みになっていますか。次回の企画のためにも、現状と未来予想図を教えてください。基になる考えのひとつに、協議会規約の目的があります。『地域の青少年健全育成活動に対する支援』とあります。私は入会以来、支援とは「各会員の活動に対して」と説明を受けています。となれば「どのような個人への支援をしているのか・できるのか」を明確にする必要があると思います。

ところで、このように考えてくると、主旨や全体の流れから見て、講習会の名前はこれでいいのかなと思っただけになりました。つまり、入会するかどうかは別

にして、青少年育成に積極的な方々に参加して頂くことが目的になります。そうすれば「子ども達が伸びるチャンスを活かそう」という我々の目標を一人でも多くの方に届けることができると考えます。

一方、講習会開催は協議会として「会員全員で取り組む活動」という大きな柱になり、今後も各自の持っている力を発揮し活性化に繋がるのではないのでしょうか。

大変理屈っぽくなりました。お許してください。最後まで読んで頂き有難うございました。コロナ禍で毎年の思春期保健相談士の講習会も中止になりました。やっと開催されても東京や県外なので、私は受講を控えている状況です。インプットの機会が少なくなっています。それだけにアウトプットの意欲も自信も萎んでしまいそうです。皆さんにお会いして元気な笑顔に接し、エネルギー補給したいです。



第1回鳥取県青少年育成アドバイザー養成講習会の様子
一日中びっしりと講義！ でも、みなさん熱心でした!!




コロナ禍の中でみえてくる矛盾や問題点…
青少年の健全育成をめざすためには…

～青少年たちから信頼される 大人・政治の姿をめざして～



鳥取県青少年育成アドバイザー副会長
西上洋治

今のテレビ等の報道は、学級内のいじめとよく似ています。強い者に恐怖を感じ、ご機嫌伺いをし、悪いと感じながらもいじめに加担し、命が失われていることが繰り返されています。青少年の健全育成をめざす私にとっては耐えがたい苦痛です。

政治は法律に則り進められていますが、行政が決定権を持つ前提として、決定過程や意図を国民に情報開示することが民主主義の大前提です。選挙で議員を選び議員に法律の作成を委ねています。故に決定過程と意図が国民に開示されなければ、主権者である国民が何をめざしどう決められたのか知ることができません。知らなければ選挙でどんな考えの人を選ぶのか判断できないと思うのですが、あなたはどのように思いますか。

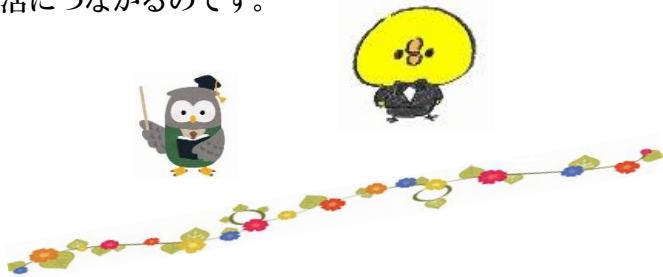
学術会議の任命にしても、総合的俯瞰的な観点で判断したと説明されたが、国民が理解できるのでしょうか。俯瞰的とは辞書によれば高いところから見下ろすこと、広い視野で物事を見ること、客観的に物事の全体像をとらえることです。国民が理解しやすい言葉で説明してほしいです。拒否した人物は今までに政府の方針に反しているからと説明すればわかりやすいのです。ごまかさなくていいように進めればモヤモヤ感も解消できるのです。今のままでは信頼も失われ、大人や政治に不信を抱く青少年が増えるのではないかと心配します。

国会議員とりわけ自由民主党の議員も知らぬ間に行政解釈が変更されていたり、文書が廃棄されていたりしても国民から選ばれているという自負心を持って行動できないのであれば、その理由を地元に戻って話し、選んでくれた人たちに納得してもらおう努力をしてほしいと思うのですが実現不可能でしょうか。

また、持続化給付金の不正申請で9月末までに消費生活センターに173件お金を返したいなどと相談するケースがあると報道されています。その大半が10代と20代の若者とのこと。持続化給付金はインターネット上の簡単な手続きで申請できるため、会員制交流サイトで案内されたり知人に勧誘されたりして安易に申請している現状があるとのこと。中小企業庁や警察などにも家族から相談するケースもあり実際の不正の数は多くなると思うのですが、今わかっている数すら政府は公表していません。不正受給した青少年が悪いと決めつけるだけでなく、税金を使った給付であることを国会議員は自覚し、支給システムのあり方を決めた法律の不備をすぐ正してほしいものです。税金を湯水のごとくつぎ込んでいるペイペイやポイント還元、コロナ対応支援を進められていますが、後始末は誰が責任を持っているのですか。

毎日農作業に汗を流している私には、ペイペイもポイントも旅行も食事もテレビの中の話です。1泊1人4万円の部屋を利用できる人になぜ支援するのか理解できません。一方で職を失い困っている家庭には自助で対応することを求められています、何か勝手な理屈で困っている人々がほったらかしにされているようでたまりません。

ものごとは決めたらきちんと実行できるように、決定過程と意図をわかりやすく情報開示できる社会にしていきたいものです。知れば次の選挙で判断する材料になるのです。選挙で誰を選ぶかが自分の日々の生活につながるのです。



～ 鳥アドの新しい仲間をご紹介します！～

先輩に誘われて



中原 知恵

私は、我が子たちが繋いでくれたご縁で人生が大きく変わりました。きっかけは「話があるけど、よかったらちょっと来ん？」と青少年育成アドバイザーの厚子・Mさんに誘われて行き、そこで「大丈夫出来るけ。」と説得され務めることになったPTA会長でした。研修会や講演会を企画したり、その後もいろいろな役を経験したりすることで、様々な立場の方々のご縁ができ、さらに知ることや学ぶことが楽しくなりました。

そのような折「とても勉強になる会があって、集まる人も楽しい人ばかりだし、よかったら行ってみん？」と誘われ、軽い気持ちで参加したのが青少年育成アドバイザーの研修会でした。初めてお会いする方が多かったのですが、温かく迎えてくださり心地よかったです。しかし、会員の皆さんは人生経験が豊富な方ばかりで、私がお邪魔してもよい会なのかと大変恐縮しております。

もう一つ人生を変えたお誘いがありました。「私の職場で、よかったら働いてみん？」と。お陰様で今で

はこども園で働き、職員はもちろん子ども世代の保護者さんや孫世代の元気溢れる園児たちとのご縁ができました。

青少年育成アドバイザーの会で、先輩方から多くのことを気づかせていただき学んでいます。その学びを、縁あり出会った方へ伝えることで少しでもお役に立てればと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いたします。

なるほど…

厚子・Mさんに見込まれたら
もうやるしかない！ ですね…
ファイトっ！！



～ 徒然なるままに～



コロナ禍の今年は？

第4報

竹本 万寿子

今年2月末からの我が家の雛祭り展示中に、北海道や東京、客船ダイヤモンド・プリンセス号内でのコロナ感染が広がり、一大社会問題となりました。全国の小中学校も休校となり、その後は3密を避ける自粛生活が全国に広がりました。緊急事態宣言が出された翌日は、雛祭りの来訪者はひとりもなく、公開展示を始めた平成14年以来初めてのことでとなりました。しかし、その後は休校になったことで親子での見学なども増えて、ほぼ平常通りの人数の来訪者に恵まれ何とかいつものように行事を終えることができました。

4,5,6月と全国的にコロナ感染が相次ぎ、様々な集団活動や講演などが延期や中止となり、私も地域の公民館活動やボランティア活動がほとんどなくなって、随分と気の抜けた日々が続くこととなりました。

8月には、名古屋方面に嫁いでいた次女が、第二子の里帰り出産で幼稚園年中児の子を連れて帰省してきました。妊婦の娘はコロナ感染防止にとっても神経質になっていて、私たちも今まで以上に衛生面に気を配らなければならなくなりました。食事も、幼児食には

気をつけなければなりませんし、孫の世話も結構大変でした。年中の男児はとても快活で、次々と遊びを考えて一日中動き回っています。普段高齢者だけでのんびり暮らしている私にとって、彼との遊びのお付き合いは、楽しく面白くはありましたが、体力は消耗するし安全にも配慮しなければなりません。そのため、いくら食事に注意しても体操をしても体重は増えるばかりの私でしたが、孫との活動で、少しの間で2キロも痩せました。

コロナ禍での出産はまた、今までにないことだらけでした。里帰り出産を決めていたので、妊娠がわかるとすぐに鳥取の産婦人科に予約を入れていました。そうでなければ、県外からの里帰り出産は断られていたところです。はじめは市内の個人産院に予約していたのですが、診察後、娘の体調のこともあって県立病院に転院を勧められ最後までそこで世話になりました。PCR検査も、鳥取県で出産する場合は無料でいただきました。でも、入院する時の付き添いも、出産の立ち合いも誰もできないし、出産後も面会不可能でした。無事女兒が誕生しましたが、退院時も私たちは病院玄関で車の中で待ち、娘はひとりで赤ちゃんを抱いて出てきました。本当にコロナ禍の出産は孤独なものです。産後1ヵ月後、お婿さんが迎えに来て娘家族は帰って行きました。



さて、感染防止で延期になっていた梨花薪能が10月31日(土)に催行されました。その昼の部に舞囃子を舞うことになっていた私は、娘たちが帰った後約1ヵ月、猛練習しなければなりません。たいして上手な舞ではなかったけれど、今できる精いっぱいを出し切ったってなんとか約20分間の舞を終えることができました。ハロウィーンの満月の夜、大きなイベントができて自分なりに充実感があります。今年は本当に大変な年だったなとつくづく思っています。

少しづつ野外活動などが再開されていますが、1日も早く新型コロナウイルス感染が収束し、また集団活動が活発にできるようになればと切に願っています。



～こんな店 見つけた!～ 第2報

レトロな 昭和おもちゃ館

鳥取県八頭郡若桜町



建物は明治時代に建てられた古民家。

入口では駄菓子売られ、駄菓子売り場の奥にはおもちゃ館がある。



月光仮面だ!



この駄菓子屋を切り盛りしているおばちゃんは、かつて「若桜町青少年育成アドバイザーの会」のメンバーとして地域の子どもたちといっしょにバリバリ活動していた、熱い熱い心の持ち主です。

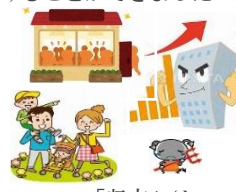
編集後記

♪ど～この誰だか知らないけれど だ～れもがみ～んな知っている。
月光仮面のおじさんは正義の味方よ善い人よ ハヤテのように現れてハヤテのように去って行く。月光仮面は誰でしょう、月光仮面は誰でしょう～♪ お～懐かし!

え?ええ?なんでこんな古い歌知ってるんでしょう…私、何歳だっけ…とサバをよむのではなく、今こそ、広辞苑を読んでみましょう!

世界中が一日も早いコロナのシュウソクを願っています。この「シュウソク」は終息?収束? 広辞苑によると「終息」は事が終わっておさまること・終止で、「収束」はおさまりをつける事・おさまりがつくこと、とあります。「終息」は、ワクチンや治療薬によりウイルスの根を止めて流行を終わらせる、根絶とまではいかないまでも新規感染者がほとんどいない状態を指すそうです。一方、「収束」は日常生活において混乱していた物事がいったん収まるという意味で、感染リスクはあるものの社会情勢として事態が落ち着くこと、新規感染者が一定期間減少傾向にあり、医療機関が落ち着いた状態にある時だそうです。

最近ではマスコミなどでは「収束」を使っていることが多いように感じます。コロナ禍のおかげで、ここでもまた、ちょっと立ち止まって考えてみることができました…。



「収束」?



「終息」?